

平成28年度 病害虫発生予察情報

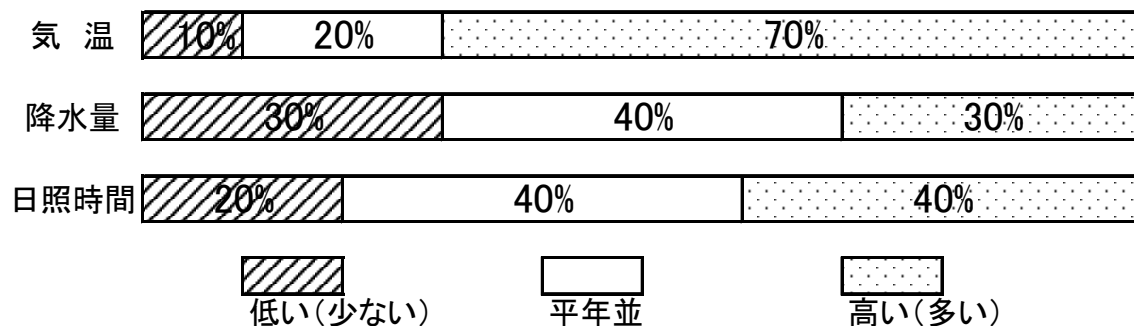
発生予報第6号（8月中旬～9月上旬）

平成28年8月8日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	穂いもち	平年並		
		紋枯病	平年並		
		白葉枯病	少ない		
		ニカメイチュウ	やや多い		
		ツマグロヨコバイ	平年並		
		セジロウンカ	平年並		
		トビイロウンカ	平年並		
		コブノメイガ	平年並		
		斑点米カメムシ類	平年並		
		果樹	ナシ	黒斑病	やや少ない
				シンクイムシ類	平年並
ハダニ類	やや多い				
カメムシ類	やや少ない				
カキ	うどんこ病			少ない	
	カキミガ	平年並			
	カメムシ類	やや少ない			

中国地方1か月予報(8月6日～9月5日・広島地方気象台8月4日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) 水稻

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査（70ほ場）における葉いもちの発生ほ場率は、一部地点での発生が多く20.0%（平年12.3%）、発病株率は9.2%（平年4.6%）と多かったが、病勢は緩慢で病斑は停滞型であった。

② 「コシヒカリ」などの出穂期は平年に比べて早い。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査（70ほ場）における発生ほ場率は、17.1%（平年20.4%）、発病株率は2.6%（平年3.3%）と発生量はやや少なかった。

- ②向こう1か月の気象は、本病の発生（発病株での上位進展）にやや助長的である。
- (3) 白葉枯病
 予報内容
 発生地方 県内常習発生地帯
 発生量 少ない
 予報の根拠
 ①7月下旬の発生量はやや少ない。
 ②向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。
- (4) ニカメイチュウ（第2世代）
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや多い
 予報の根拠
 ①予察灯における誘殺数は138頭（平成30.7頭）と平年に比べ多い。
 ②8月上旬の巡回調査では、発生ほ場率は6.3%（平成7.0%）、被害株率は0.1%（平成0.2%）で発生量は平成並みである。
 ③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (5) ツマグロヨコバイ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平成並
 予報の根拠
 ①予察灯での誘殺数は838頭（平成295.8頭）と平年に比べ多い。
 ②8月上旬の巡回調査では、捕獲数は8.6頭（平成14.3頭/50株）、発生ほ場率は39.6%（平成67.3%）で発生量は平年に比べやや少ない。
 ③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (6) セジロウンカ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平成並
 予報の根拠
 ①予察灯への初飛来は益田市で6月16日、その後出雲市で6月20日に認められた。7月30日までの出雲市予察灯への誘殺数は平成並みである。
 ②8月上旬の巡回調査では、捕獲数は12.2頭（平成34.4頭/50株）、発生ほ場率は79.2%（平成76.0%）で発生量は平成並みである。
 ③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (7) トビイロウンカ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平成並
 予報の根拠
 ①7月30日までの出雲市予察灯への誘殺数は平成並みである。
 ②8月上旬の巡回調査では、捕獲数は0頭（平成0.19頭/50株）、発生ほ場率は0%（平成6.7%）で発生量は平成並みである。
 ③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (8) コブノメイガ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平成並
 予報の根拠
 ①7月30日までの出雲市予察灯への誘殺数は平成並みである。
 ②8月上旬の巡回調査では、発生ほ場率は22.9%（平成20.1%）、被害株率は0.3%（平成3.8%）で発生量は平成並みである。
 ③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (9) 斑点米カメムシ類
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平成並
 予報の根拠
 ①8月上旬に出穂しているほ場でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で1.3頭/20回振り（平成3.2頭）、発生地点率43.5%（平成64.3%）で発生量は平成と比べ少ない。主要種はアカスジカスミカメである。
 ②6月下旬のほ場周辺雑草地でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類合計で

10.8頭/20回振り（平年6.9頭）、発生ほ場率は67.6%（平年65.0%）で発生量は平年に比べやや多い。

③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

①7月下旬の巡回調査では、発病葉率7.8%（平年12.7%）であり、発生量は平年と比べてやや少ない。

②向こう1か月の気象は本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

①フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期、誘殺数はともに平年並みである。

②向こう1か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

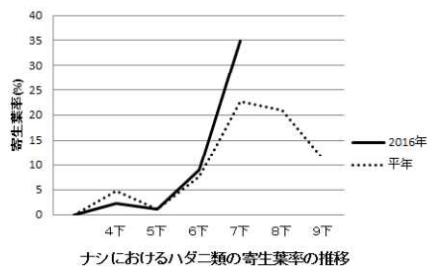
発生量 やや多い

予報の根拠

①7月下旬の巡回調査では寄生葉率34.8%（平年22.8%）でやや多い。

②向こう1か月の気象はハダニ類の発生を特に抑制する要因とはならない。

③クワオオハダニが見られるほ場も散見される。クワオオハダニに効果の低い薬剤があるので薬剤の種類には注意が必要である。



(4) カメムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

①予察灯（出雲市）での8月1半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの3種果樹カメムシ類の誘殺数は218頭（平年1310.7頭）で平年に比べ少ない。

②チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップによる8月1半旬までの誘殺数は54頭（平年1116.5頭）と平年に比べて少ない。

③向こう1か月の気象はカメムシ類の発生にやや助長的である。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 少ない

予報の根拠

①7月下旬の巡回調査では、発病葉率0.14%（平年5.6%）であり、発生量は平年と比べて少ない。

②向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

①第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みであった。

②向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①予察灯（出雲市）での8月1半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの3種果樹カメムシ類の誘殺数は218頭（平年1310.7頭）で平年に比べ少ない。
- ②チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップによる8月1半旬までの誘殺数は54頭（平年1116.5頭）と平年に比べて少ない。
- ③向こう1か月の気象はカメムシ類の発生にやや助長的である。

島根県病虫害防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>